

ウッド・チェンジ・ネットワーク 第3回会合 議事概要

開催日時： 令和2年3月17日（火）10:00～12:00

場 所： 農林水産省講堂

概 要：

会員企業・団体より最近のウッド・チェンジの取組について、大橋好光東京都市大学教授よりワーキング・グループ（低層小規模、中規模ビル、木質化）の取組について説明・話題提供後、意見交換を実施。主な意見は以下のとおり。

- どれくらい国産材を使えば地域に還元できるのかという観点が必要であり、個々の建築物における国産材利用量が重要。
- 地域への還元のためには、無垢材を使用していくことが重要。
- 木造の低層小規模建築物の普及に向けた資料を一層充実させることが重要。
- 施主の関心事項として経済合理性は避けて通れない。コストの問題をいかに解決するかが、中規模木造を普及させていくポイントであり、参加者が知恵を出し合うことが必要。
- 新たな技術の適用も含め木造建築物の事例を見ることでビルオーナーも検討しやすくなるのではないか。
- 建築物の木造化において最初の建設では割高になるだろうが、2棟目以降の建設ではコストを抑えられた部分が出てくると考えられる。そのような情報が共有されることを期待。
- 木造建築におけるコストダウンについては、技術開発や設計上の工夫を行いつつ、さらに合理化された建築基準法の改正内容を上手く取り入れることで実現し、時間はかかっても継続的に取り組むべき。
- 建築、設計あるいはプロジェクトを進めていく中に、構造部材や空間に

において、木ならもっと良い空間になるのではないか、居心地が良くなるのではないかを考えるプロセスを取り入れることで、木材利用の促進につながるのではないか。

- 木材の意匠性にインパクトがあり、このような特徴を活かすことが重要。

今後の取組については、今年度のワーキング・グループの取組をベースとして低層小規模、中規模ビル、木質化の別に、木材利用の推進に向けた検討を進めることで一致。